

# ビワ生育情報

千葉県  
平成26年3月号

## 平成26年2月の気象

平成26年2月の半旬別の気象を表1に示した。平均気温は、第1、第6半旬を除く4半旬で平年を下回った。第6半旬では11.7℃、第2半旬では3.3℃を記録し、寒暖の差が激しい月であった。月平均気温は5.9℃で、平年より0.4℃低く、前年より0.2℃高かった。

氷点下を記録した日は、第1～第4半旬でみられた。月合計は6日で、平年より3日、前年より5日少なかった。最低極温は、第2及び第4半旬で平年を下回ったが、幼果が寒害を受ける-3℃以下を記録した日はなかった。

降水量は第1及び第4～6半旬で平年を下回り、第4及び第5半旬では降雨がなかった。一方、第3半旬では109mmと集中していた。また、2月8日及び14日には降雪があった。月合計は142mmで、平年より39mm(38%)多く、前年より5mm(3%)少なかった。

日照時間は第1～4半旬で平年を下回った。月合計は120時間で、平年より31時間(21%)、前年より13時間(10%)少なかった。

表1 平成26年2月の気象(暖地園芸研究所)

半旬	気温(℃)			氷点下日数(日)			最低極温(℃)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	8.1	5.4	10.1	1	2.1	0	-0.7	-1.7	0.7
2	3.3	6.4	5.0	3	1.8	3	-1.7	-1.3	-1.0
3	3.8	6.4	5.3	1	1.7	1	-0.4	-1.5	-2.5
4	5.2	6.0	4.3	1	1.6	2	-1.3	-1.1	-1.5
5	5.6	6.8	3.8	0	1.2	4	0.3	-0.5	-2.7
6	11.7	7.2	6.2	0	0.8	1	1.5	0.3	-1.9
平均/計/最低値	5.9	6.3	5.7	6	9.2	11	-1.7	-3.2*	-2.7

※：過去40年間の最低極温の平均

表1 (つづき)

半旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	2	13	39	23	29	19
2	28	14	15	13	28	18
3	109	11	22	6	27	21
4	0	28	56	25	26	22
5	0	22	0	37	26	37
6	4	15	16	16	16	17
合計	142	103	147	120	151	133

## 4月の作業(果実の発育は次ページ)

4月になると、平均気温が一段と高くなって枝葉・根ともに伸長が盛んな時期になり、果実の肥大も急速に進む。3月に続き、摘果・袋掛けが重要な作業になる。

### 摘果・袋掛け

寒害を受けやすい園では、幼果の生死の判別がしやすくなった頃から摘果を始める。果形が細長く、果実肥大が均一でなく、果皮に張りが無いものは被害果の可能性が高い。被害果の発生が多い園では、樹冠の外側の幼果は避け、被害が比較的少ない樹冠内側の幼果を多く残すようにする。

### がんしゅ病の予防

千葉県農作物病害虫雑草防除指針に従って、幼果期までに銅剤を予防散布する。その際、幹や枝にも薬液が十分にかかるようにする。また、積雪によって枝に損傷がみられた場合は、枝を切り詰め、傷口やせん定部位にトップジンMペーストなどを塗布する。

### 除草

春草が繁茂する時期になるので、収穫が始まる前に除草をすませる。草生栽培園では、

有機物を補給する意味で草を刈り取って樹冠の回りに敷くとよいが、労力の足りない場合は除草剤を利用する。

## 樹及び花房の発育

ビワの開花期を表2に示した。暖地園芸研究所の開花始期（1花房内の蕾の10%が開花）は、「楠」が11月15日で、平年より5日遅く、前年より8日早かった。「大房」は12月20日で、平年より24日、前年より6日遅かった。「田中」は11月19日で、平年より5日遅く、前年より4日早かった。

開花盛期（1花房内の蕾の50%が開花）は、「楠」が12月8日で、平年より9日、前年より3日遅かった。「大房」は1月9日で、平年より18日、前年より10日遅かった。「田中」は12月11日で、平年及び前年より4日遅かった。

開花終期（1花房内の蕾の90%が開花）は、「楠」は12月26日で、平年より3日早く、前年より9日遅かった。「大房」は2月11日で、平年より11日遅く、前年より10日早かった。「田中」は1月10日で、平年より3日早く、前年より24日遅かった。

本年は、残暑が長引いた影響で花房の発現が遅く、開花の進みが遅れていたが、「楠」及び「田中」は開花期間が短く、平年より早く開花が終わった。1月には寒波があったため、開花が早かった花房や圃場を中心に寒害を被ったと考えられる。

表2 ビワの開花期（暖地園芸研究所）

品 種	開花始期(月.日)			開花盛期(月.日)			開花終期(月.日)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	11.15	11.10	11.23	12. 8	11.29	12. 5	12.26	12.29	12.17
大 房	12.20	11.26	12.14	1. 9	12.22	12.30	2.11	1.31	2.21
田 中	11.19	11.14	11.23	12.11	12. 7	12. 7	1.10	1.13	12.17

平年：1982年～2012年の31年間の平均

3月3日時点のビワ幼果の生存率は表3に示した。樹冠外側の生存率は「楠」が85%、「大房」が87%、「田中」が90%であり、「楠」は平年及び前年より高く、「大房」は平年よりやや高く前年よりやや低く、「田中」は平年よりやや高くほぼ前年並みだった。樹冠内側の生存率は「楠」が93%、「大房」が97%、「田中」が84%であり、「楠」及び「大房」は平年及び前年並みで、「田中」は平年及び前年より低かった。樹内外の平均生存率は「楠」が88%、「大房」が91%、「田中」が88%であり、「楠」は平年及び前年より高く、「大房」は平年より高いが、前年よりやや低く、「田中」は平年並みで前年よりやや低かった。

暖地園芸研究所では、2月28日までに最低気温が-3℃以下を記録した日はなく、3品種共に、開花盛期は平年より遅れ、幼果の生育も遅れているため、寒害を被った幼果は少なかった。

花房内の幼果数は平年並みで、萌芽の展葉はやや遅れている。本年の果樹カメムシ類の越冬量は、南房総市他、県南地域で平年よりやや多いが、今後の発生予察情報を参考にす。また、カメムシの発生の多い園では、4月以降ビワ園への飛来に注意を要する。

表3 ビワ幼果の生存率（暖地園芸研究所）

品 種	樹冠の外側(%)			樹冠の内側(%)			内外の平均(%)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	85	65	70	93	92	96	88	78	82
大 房	87	82	94	97	95	99	91	87	96
田 中	90	83	87	84	97	97	88	90	92

調査日：2014年3月3日

平年値：1998年～2013年の16年間の平均

【問い合わせ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 果樹・環境研究室 電話0470-22-2961】  
※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生産者向け情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/nousui/nourinsuisan/nourinsuisan.html>